

こもれび 武蔵野市社会教育委員だより

発行日：令和3年10月15日

編集：社会教育委員の会議

発行者：武蔵野市教育委員会

市ホームページではカラー版が
ご覧になれます（右記QRコードから）



武蔵野市社会教育委員だより

令和3年10月15日 第10号

東京都市町村社会教育委員連絡協議会 定期総会・委員研修

日 時：令和3年4月17日（土）

場 所：青梅市文化交流センター多目的ホール／オンライン

内 容：(1) 表彰

(2) 議事 令和2年度事業報告・決算報告および令和3年度事業計画、予算等

(3) 講演 講師：東京大学名誉教授 佐藤 一子 氏

「社会教育のつながる力を明日へ ―学びをつうじて協働する関係の構築―」

自宅のPCから参加しました。映像はきちんと見えるものの、音声の状態がとても悪く、知らない単語や名称だと正確に判断することができず、前半の報告に関してはキチンと聞き取ることができませんでした。技術的な問題だと思われるので、会場との同時配信の設定などが共有出来るとオンライン開催の際に知見が蓄積され、今後、同じようなことが起こらないのではないかと思います。

定期総会の報告に関しては、あまり聞き取れなかったものの会場での承認を受けているので、大きな問題はなく進行されたと思います。もちろん、コロナ禍ということもあり、様々な報告がその影響を受けており、社会教育という私たちの活動も大きく影響を受けていると感じました。

休憩をはさみ、東京大学名誉教授の佐藤一子氏による基調講演『社会教育の「つながる力」を明日へ―学びをつうじて協働する関係の構築―』が始まりました。ご自宅からのオンライン講演であったため、音声などは聞きやすく、内容もとても興味深く拝聴しました。

その中で、大きな勘違いをしていることに気づかされました。「生涯学習」という言葉の認識です。イメージとして自治体で使われる意味として、老後の新たな学びというように捉えていました。個々の老後の生き甲斐としての学びのようなイメージです。しかし、国際的にはそうした矮小化された意味合いではなく、社会全体の学びという認識ということです。

社会教育とは「個人及び集団の力量を発展させる権利」そして1996年のユネスコ21世紀教育国際委員会報告の「知ることを学ぶ・為すことを学ぶ・共に生きることを学ぶ・人間として生きることを学ぶ」ということばの通り、多様な人々が共に生きること、そしてそれを学ぶという文化そのものが生涯学習であり社会教育であるのだと知ることができました。

今回の講演で社会教育の認識が正されたことは、私にとってとても有意義なことであり、これからの社会教育委員としての任期をそうした認識の元に活動できるということは、より地域に貢献できるようになると思います。

講演はそうした社会教育とは？といったお話やその大切さ、そして実際の事例の紹介と、とても有意義でぎゅっと詰まった内容でした。そして、コロナ禍であるからこそ社会教育というものが文化を守る防波堤として必要だと強く考えさせられました。

残り1年の任期中にどこまでできるかわかりませんが、精一杯活動させていただきます。もちろん任期後も社会教育に貢献できるようにしていきたいです。（上澤 進介）



令和2年度生涯学習事業費補助金交付事業視察報告

団体名：RB - SOUL (ラブソウル)	事業名：東日本大震災復興支援チャリティーイベント『Keep Smile Forever～今年は配信編～』～キッズダンスで復興支援！～
日 時：令和3年3月21日から	場 所：ライブ配信（アーカイブ公開）
視察委員：河合 雅彦、本郷 伸一	
<p>概要 当初は、野外ステージ（コピス吉祥寺入口ステージ）でのキッズダンサーとプロアーティストによる復興支援等への補助金交付事業。その後、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、動画配信による「震災の風化防止」と「震災から学ぶ防災」を目的とした活動の変更届が出され、委員会で補助金を審査し、その届を承認した事業。</p>	
<p>視察報告 動画配信での事業となり、岩手県釜石市のこども園長による話から始まり、被災地支援をしているアーティストのライブ、防災クイズやキッズダンサーが参加しての応援活動など、同団体のチャリティーイベントが紹介されました。</p> <p>特に、震災から10年後の被災地の現状が紹介され、被災地の方々からのビデオメッセージを始め、陸前高田市の親善マスコットキャラクター「たかたのゆめちゃん」が登場するなど、被災地の復興支援を風化させないよう工夫されたものでした。</p> <p>当初の予定とは変更となりましたが、その目的とした活動が、動画を視聴する中で理解することができました。</p>	
<p>視察報告 例年の吉祥寺でのキッズダンスではありませんでしたが、配信だからこそ出来る内容になっておりました。キッズダンスはもちろんのこと、かまいしこども園のメッセージ、陸前高田PR、現地のシンガーソングライターの歌、防災グッズの作り方、現地の子どもたちからのメッセージ、武蔵野の子どもたちからのメッセージ等と盛りだくさんでした。</p> <p>前日の東北沖の大きな地震の後の開催で不安もあったと思いますが、とても心温まる配信でした。</p>	

団体名：劇団芝居屋楽屋	事業名：コロナに負けるな！！「武蔵野の楽園」
日 時：令和3年3月27日・28日	場 所：武蔵野芸能劇場
視察委員：荒井 恵風、助友 裕子	報告：助友 裕子
<p>概要 変更届を承認。事業名・日時を上記に、上演台本を「楽園の楽屋」に変更。</p> <p>コロナ禍により開催時期と開催方法の大幅な変更申請により承認された、上演台本「楽園の楽屋」による舞台演劇。9名の役者が3名ずつのチームを編成し、同台本にて計6回の舞台が2日間にわたり披露された。</p>	
<p>視察報告 本事業は、コロナ禍により開催時期と開催方法を大幅に変更した上での変更申請が承認され、予定通り年度内に実施されました。</p> <p>9名の役者と等身大の中高齢女性をめぐる現代的諸課題を描いた物語で、客層も同テーマに関心のありそうな者が多い印象を受けました。さらに、会場設営への配慮のみならず、舞台上にアクリル板パーテーションが設置されたり、役者の所作の中にアルコール消毒を使用する場面があったりするなど、コロナ禍における新しい生活様式は、舞台演劇にも多く取り入れられていました。</p> <p>以上の点から、本事業は補助金を活用した生涯学習事業として意義のあるものであったと感じました。</p>	

令和3年度補助金審査結果

今年度も「生涯学習事業費補助金」及び「子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金」の募集が行われ、それぞれ2団体、1団体から交付申請がありました。

6月1日に行われた審査会では社会教育委員が審査員として、各事業が補助の趣旨に合致しているかを公正に審査し、審査員の意見を参考に教育委員会が交付金額、指摘事項を確定させました。(事務局)



プレゼンテーション審査の様子

➤ 生涯学習事業費補助金（申請：2団体 交付：2団体）

No.	団体名	事業名	交付金額
1	レディースハーブ	コロナ禍の中大正琴の演奏で武蔵野市を応援する	230,000 円
2	マギーズ東京に学ぶ がんサポート拠点を武蔵野に。	第3回～第5回 マギーズ東京に学ぶがんサポート拠点を武蔵野に。情報交換会	290,000 円



➤ 子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金（申請：1団体 交付：1団体）

No.	団体名	事業名	交付金額
1	むさしの子ども能楽クラブ	能楽体験ワークショップ ～能の鬼退治～ 能「安達原」より	400,000 円



■ 関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会 ■

11月11日（木）府中の森芸術劇場にて令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会が開催されます。この大会は昭和45年に埼玉で開催された第1回大会から数え、52回を迎えます。令和元年7月に発足した、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、武蔵村山市、稲城市、東村山市、狛江市から成る実行委員会に武蔵野市も名をつらね、大会冊子、報告書、アンケート、当日スタッフのとりまとめを担当しています。

昨年度の新潟大会と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が必要なため、開催案を複数用意し、状況に応じた開催ができるように検討を重ねてきました。残念ながら当初案を縮小し、1日開催とせざるを得ない状況となりましたが、多くの方に参加していただけるよう、オンライン配信も実施します。大会スローガン「明日に向け 学びの輪を広げよう！！」は、人生100年時代のこれからの未来を表現し、社会教育＝学びが広がっていくことをイメージし、人や地域がつながっていくことを目指しています。この大会が地域の活性化に向けた新しい社会教育活動のきっかけとなるような大会となるよう鋭意準備中です。(板垣 文彦)



教育委員と社会教育委員の懇談会

9月6日、教育委員と社会教育委員の懇談会が開催されました。まず、指導課長から「小中学校における一人1台の学習者用コンピュータを活用した学習活動について」話題提供がありました。それによると、当初は4～5年をかけて進める予定の中央教員審議会のGIGAスクール構想は、コロナ禍に対処するために一気に進み、武蔵野市でも今年度の教育委員会基本指針の中で子どもたちがICTを効果的に活用して学びを深めるという方針が示され、既に市立小中学校に通う子どもたち全員がタブレット型パソコンを活用した学びを始めています。

そこでは、オンラインと対面のバランスをどう取るかということが課題になっており、各校にICT活用リーダーを置き、連絡会を開催する他、月一回、HPで「学習者用コンピュータ通信」を発行してサポート等をしているということでした。

続いて、社会教育委員でもある本宿小学校の安部校長と第三中学校の河合校長から、学校でのICT活用の現状についての紹介がありました。小学校でどのように「オンライン朝の会」や「オンライン授業」が行われているか、保護者のオンライン授業への満足度アンケートの結果、中学校各教科での取り組み状況とその成果と課題等をご紹介いただきました。

また、不登校の生徒も「オンライン朝の会」には必ず出席していた、という話もありました。学校に通うこと、そこで多くの人と接触すること自体が大きな負担であるような子どもたちにとって、オンライン教育の導入は救いになったのだと思います。一方、人との触れ合いの中でしか得られないこともあるので、ICTの活用との「ベストミックス」を模索することが必要だということも伺いました。

今の日本社会では、大人よりも子どもの方がICTに親しんでいます。場合によっては子どもたちの方が高い技術を持っていることもあります。上の世代が下の世代の学び方に学んでいく、ということも必要なことなのではないかと考えさせられ、社会教育委員としては大きな宿題をもらったということを感じました。



(光田 剛)

■図書館で見つけた！ 社会教育委員イチオシの本■

『不平等の再検討—潜在能力と自由』

アマルティア・セン著 池本幸生、野上裕生訳 岩波書店、1999年
ノーベル経済学賞を受賞した著者による不平等とは何かを様々な視点から考察した本書をSDGs（持続可能な開発目標）の推進を求められている今こそ読んでいただきたいと考え推薦させていただきます。SDGsの目標10（人や国の不平等をなくそう）はもとよりすべての目標に対して間接的にも考えさせられる内容です。金銭、経済面での優劣や単にジェンダー平等を謳っていてもそれぞれには様々な要素がありその要素をしっかりと分析、理解した上で平等、不平等を語るべきであり、本書ではその様々な要因、要素について詳しく解説をしています。また、大変多くの参考文献が記されているので本書を読みながらさらに深掘りをしたい、興味がある項目に関しては関連書を読み進めることでさらに見識を広げることができると思います。

(堀内 雄次郎)